

月報 2020年 2月29日 No.349

石城山岳会

2月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

石城（いわき）登山教室 1月山行 筑波山

天下の秀峰「金時山」

伊豆の雪山「天城山」

「奥久慈岩稜・鷹取岩と男体山」

霧氷の美しい、雪の大滝根山

筑波連山縦走のみち足尾山から加波山

雄国沼・雄国山スノーシュートレッキング

石城（いわき）登山教室 1月山行 筑波山

2020年1月12日（日）

参加者：受講生 8名 山岳会16名 計24名

早朝5時前、夜が明けるにはまだまだ早く真っ暗い中、いわき合同庁舎に集合。常磐自動車道にて、日本百名山のひとつ「筑波山」へ向かった。車中では、本日の山行に備えて、皆 熟睡。高速道路を降りる頃は、すっかり明るく、快晴。筑波山とその周辺の山々の頂に積雪はない様子、アイゼンは使う必要がないようであった。

8時 筑波山神社に本日の山行の無事をお祈りし、御幸ヶ原コースを登り始めた。備えあれば憂いなし。山の天候は急変しやすいので、アイゼンを携行したのは当然である。右側のケーブルカーのレールを横目で見ながら、登り続けると、野球らしきユニホームを着用した子供たちの一団が駆け上ってきた。大人の配慮で道を譲り、また登り始めると別のユニホームの一団が駆け上ってくる。「私も子供のころは、あんなふうに軽やかに動けたのだろうか」と暫し、昔を振り返ってみた。



10時35分頃 先頭の方々、標高871mの男体山到着。数名の方は、御幸ヶ原で早めの昼食をとって待っていた。（私もその一人。あんみつの誘惑には勝てなかった。）



11時45分 標高877mの女体山到着。日本百名山の中では一番標高の低い山とのことであるが、さすがに山頂は寒い！！しかし、「折角ここまで登って来たのだから・・・」との思いで、山頂にある神社まで登ると、関東平野の眺望が素晴らしかった。

「帰りは下るだけ。巨岩・怪石群を楽しんで帰ろう」と思ったのだが、ここでも登ってくるスポ少軍団や小さい子供さんを負ぶった家族連れ達、駆け足で山を下る少年達に遭遇。またもや若い人達の体力を羨ましく思いながら、ただひたすら転倒しないように気を付けながら下山した。

13:20つつじヶ丘の駐車場が見えたときは、うれしかった。全員、事故なく無事に戻って来られたのは、筑波神社のご加護があったのかな？

アイゼンを携行しての冬の登山であり、上り坂と下り坂が苦手な私であるが、リーダーはじめ皆さんにフォローしてもらって楽しい思い出になった。そして、「来月のスノーシュートレッキングにも挑戦してみよう」と少し強気になった。

皆さん、本当にお世話になりました。ありがとうございます。（尾形 長子）

天下の秀峰「金時山」

2020年1月29日 太、山縣、菊地

日本三百名山、金太郎伝説のある金時山に、公時神社（きんときじんじゃ）から登った。

1月28日から29日夜明けにかけて荒れ模様の天気、雷を伴う嵐。東海・関東地方の内陸部は雪も多少あったが、着くころには曇りになっていた。神社入口のゴルフ練習場の有料（500円）に駐車。予定していた無料駐車場は、公衆トイレ建築中につき駐車できなかった。

神社にお参りしてから、さっそく登り始める。登山道は良く整備されており、道迷いの心配はない。木の根や岩のほか前日来の雪で多少登りにくくなっていたが、地元の方々など数人と出会った。話を伺うと、この山を毎日登っているという方もおられ、良くも悪くも、めったにないコンディションの日とのこと。

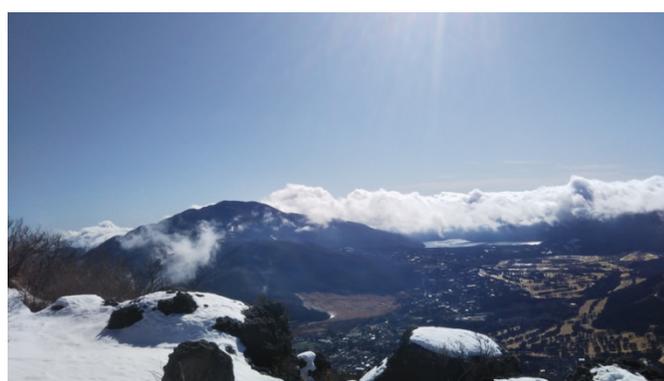
頂上に到着すると、天気もすっかり良くなり、目の前には白い衣をまとった富士がそびえていた。見回すと、足柄山地、箱根山地の外輪山に中央火山の神山（駒ヶ岳）、芦ノ湖、遠くは丹沢山地、相模湾まで見渡せる。まさに茶屋の傍らに建つ標柱「天下の秀峰金時山」に偽りないロケーション、絶景だった。

茶屋が2軒とも営業していなかったため、設置されていた屋外テーブルで軽い食事をとり、積雪の融けた登山道を、水たまりやぬかるみに難儀しながら下山した。登りと異なり、ルートは矢倉沢峠うぐいす茶屋前を経由して下山。登山口バス停から車道を歩いて駐車場所まで戻った。

（文責：太）

コースタイム

9：30 金時神社入口駐車場→9：50 公時神社→10：00 坂田金時の碑→10：10 金時神社奥の院入口→10：20 金時神社奥の院→10：40 金時宿り石→11：45 金時神社分岐→12：15 金時山→13：45 金時神社分岐→14：15 矢倉沢峠うぐいす茶屋→14：40 金時山登山口→14：55 金時山登山口バス停→15：05 金時神社入口駐車場



伊豆の雪山「天城山」

2020年1月30日 太、山縣、菊地

日本百名山、天城山に登ろうということで、会員3名で天城山縦走路の万三郎までピストン。

前日に登った箱根の金時山は、雪に苦しめられたが、温暖な伊豆地方こと、天城山は問題なかろうと思っていたが、甘かった。宿をとった伊東から車で登山口に向かうと、道路脇に除雪された雪がこんもり。ゴルフ場入口の登山者用駐車場は、スキー場駐車場もかくやという状態。公衆トイレも冬季閉鎖で使用できなかった。駐車場から軽アイゼンを装着しての登山開始。

縦走路入口から周回コース分岐「四辻」までは概ね下りだったが、樹林の中も、とにかく雪。分岐を過ぎて最初の目的地、万二郎に向けて登っていくが、たまに踏み抜いたり、足跡を見失いそうになったり。万二郎頂上は熱川方向の海が見えたが、ほかの眺望はなかった。急坂を下りた先の「馬の背」に至ると、眼下のゴルフ場、その向こうに遠笠山、大室山、遠く相模湾が見える。ここ以降は、時おり樹木越しに富士が見えたが、視界がひらけない。

万三郎手前の急斜面では、雪が凍って氷砂糖のようになっていて苦戦した。登りきった万三郎頂上は、木々に囲まれ眺望もなく、あまり広くない山頂だった。ひとまず山頂の標識を写真におさめ、休憩。

周回ルートの子ナゲコースそのままに進んで、登山口まで戻ろうとも考えたが、登頂までのペースを踏まえ、安全と時間を考えて折り返し下山とした。

(文責：太)

コースタイム

7:50 縦走路入口→8:25 四辻→10:00 万二郎→10:40 馬の背→10:55 アセビのトンネル→11:30 石楠立→12:50 万三郎→13:40 石楠立→14:05 アセビのトンネル→14:25 馬の背→15:00 万二郎→15:55 四辻→16:20 縦走路入口



「奥久慈岩稜・鷹取岩と男体山」

2020年2月4日(火)

参加者 秋葉、栗崎透、栗崎容子

暖冬気味の今冬。例年なら雪を踏みしめてスノーシューやスキーで雪山を楽しむシーズンですが、スキー場も頭を抱えるほど、日本全国雪不足。

そこで秋葉さんに提案いただいて、すっかり葉も落ちて見晴らしも良くなった冬枯れの山、奥久慈の岩稜を歩いてきました。

奥久慈パノラマラインの大円地駐車場に車を止め、9:20、歩き始めます。

今回は、奥久慈岩稜を周回するコースを大円地から左回りに歩きました。

晴天に恵まれ、青空の下素晴らしい山景色を楽しむことができました。

9:20 駐車地点からアスファルトのパノラマラインを歩き始めるとすぐに立派な「男体トンネル」をくぐります。古分屋敷橋を渡って振り返ると男体山がカッコいい。

9:58 パノラマラインを離れ、登山道に入ります。「ここからしばらくは結構登りだから」ということで皆一枚脱いで衣服調整。アドバイス通りしっかり汗をかかされました。

まずは土と落ち葉と木の根を踏みしめて歩きますが、次第な大きな岩が目立ってきます。

そして杉の植林の斜面を登っていくと、10:24「釜沢越」に到着。

近くの大木の根元には小さな鳥居と祠があり、お神酒も供えられていました。

ここを過ぎると植生が変わり、すっかり葉の落ちた明るい尾根を進みます。

雲ひとつない青空が広がり、木々の間から雪の付いた山々の姿が。

那須や日光の山でしょうか？

11:13~11:36 日の当たる見晴らしのいい尾根の上で休憩。秋葉さんに頂いたホット赤ワインと、自家製干し柿のシソ巻きがナイスマリァージュで元気百倍!

11:41 休憩ポイントから5分ほど進むと、今回のメイン目的地・「鷹取岩」に!!

鷹取岩に着いたことよりも、そこから望む入道岩(ローソク岩みたいな、ムーミンでおなじみのニョロニョロみたいな感じ!! 人の顔にも見える)に目を奪われてしまいます(笑)

とはいえ鷹取岩からの展望は入道岩の右奥には奥久慈男体山、左奥には長福山が望め、なかなか気持ちのいいポイントでした。

ところでここは、正に岩稜(岩の尾根)なのですが、北アルプスなどのように岩がむき出しになっている所は少なく、多くは土や落ち葉や木の根に覆われている感じです。

なので、あまり緊張感を持たずに歩いてしまう。断崖絶壁の手前に笹も生えているので、余計に「なかなか危険な細岩尾根なのだ」ということを忘れてしまいそうで、「もし落ちるなら左じゃなく右側ね!」などと、半分ふざけて半分まじめに話しながら歩きました。

(右側は緩やかな起伏の優しい地形です)

11:54 「フジ越」通過。

11:56 460.3 m 三角点通過。

左手崖の遥か下には集落の家がぼつりぼつり見え、稜線前方には男体山の姿がどんどん大きくなっていきます。

12:31 「小草越」通過。

13:11~13:33 「大円地越」でランチ休憩とします。

この大円地越は、3年ほど前に男体山に来た時にも昼食を摂った場所。

岩稜が続くこのルートにあっては「オアシス」と言ってもいいのでは?と、私は感じる場所で、足元はまったりとした落ち葉の絨毯、そして天然けやきの大木が天を突くようにスラッと林立し、なんとも言えず気持ちのいい場所なのです。

さて、ここから大円地に下山することもできるのですが、せっかくなので男体山へと向かいます。本日の岩稜歩き、それぞれのピークは小ぶりなのですが、けっこう激しい登降を繰り返してきました。もう少しと見えた男体山ですが、ここもけっこう歩かされます。

14:00 男体山山頂! 少し雲が出てきましたが、周りの山々と眼下の集落と大パノラマを楽しむことができました。

14:08 下山開始。前回登りにここを登り、「ここを下ることはないだろう」と思っていた、岩場・急斜面・鎖場の三拍子そろった道を下ります(笑)。

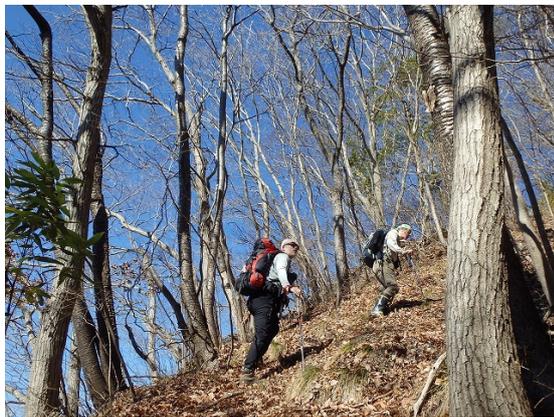
15:17 大円寺山荘の看板に帰着。

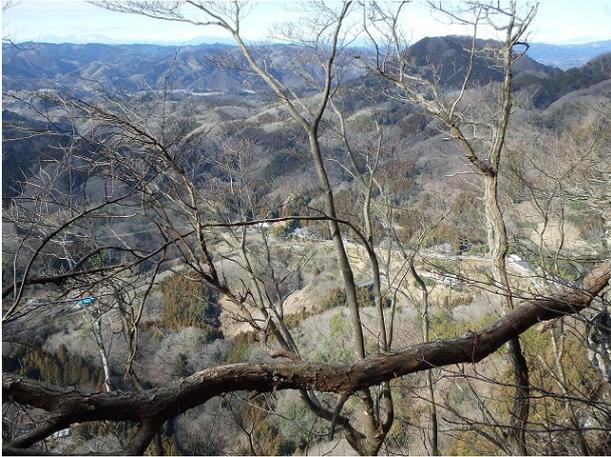
約6時間の山歩き。この山域は山を大局的に掴める「山と高原地図」(エアリア)がない為、未だによくわからない部分を残すも、なかなか楽しい山行でした。

下山後は、特産のりんごを使ったアップルパイに舌鼓を打ち、帰途につきました。

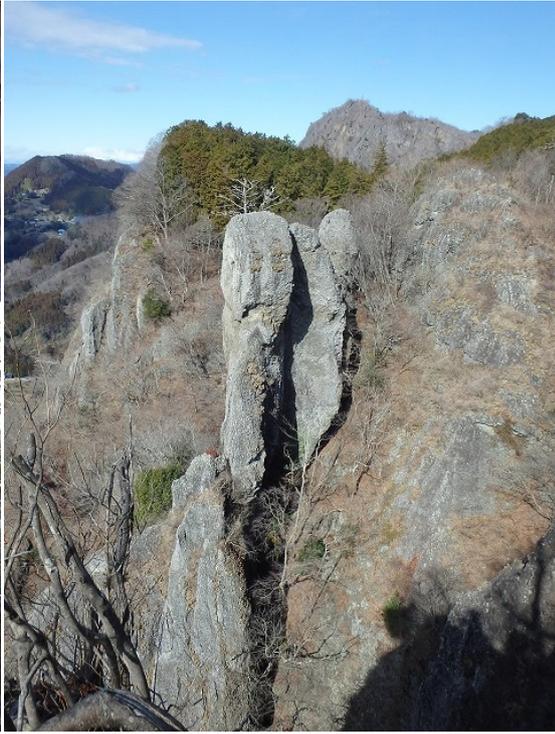
奥久慈男体山 標高 653.8m
累積標高 912m

(文責 栗崎容子)









霧氷の美しい、雪の大滝根山

2020年2月9日 上遠野、太、山縣、菊地、外2

東北百名山に挑戦中の知人が秋田から来県したので、福島の知人もまじえ案内がてら大滝根山に登った。

あぶくま高原ホテル跡に駐車して登山準備。ホテルもチャペルも廃墟なので、周囲に利用できるトイレはない。最寄りのトイレは、仙台平のキャンプ場・駐車場になると思う。

天気は曇りで、先日の雪が10cmほど積もっていた。駐車場所からアイゼンを装着して登山を開始。まっすぐ林道を登っていくと、登山道が始まり鬼五郎溪谷への分岐に至る。我々は沢に沿って直進するが、登山者が少なくせいで雪の上の足跡が薄く、ルートを見失いそうになる。賽の河原を過ぎるとコースは急になり、雪も深くなっていく。時にはロープやクサリを頼りに、時には四つ這いになって登って行く。振りむけば冬枯れの枝先の向こうに遠く雪の山々が見える。安達太良方向だろうか。

難所を過ぎて、霧氷の華が咲く林の中を緩やかに登っていく。天気も青空となり、射した太陽光で霧氷がきらきらと輝く。ドウダンなど花の美しい季節に登るのもよいが、冬の大滝根山には格別の趣がある。

林を抜けると突然、神社の看板が現れ、山頂に到着。本当の山頂、一等三角点は、神社（石の祠）の裏、自衛隊レーダー基地のヘンスの向こうにあるのだが、金網越しに見るにとどまる。晴天だが風が強く、神社の境内で寒さに震えながら昼食をとった。

昼食後、登りと異なるルートを歩きたい、安全を考えたい、となって、仙台平登山口へ下り、車道を歩いて大越登山口に戻った。

（文責：太）

コースタイム

10:00 大越登山口（あぶくま高原ホテル跡）→10:05 鬼五郎溪谷分岐→10:30 賽の河原（日山権現分岐）→12:05 大滝根山峯霊神社（山頂）→13:15 クサリ場→13:35 五合目ブナ平→14:25 仙台平登山口



筑波連山縦走のみち足尾山から加波山

2020年2月11日 太

自然歩道「関東ふれあいの道」茨城県コースに、旧・雨引駅から、加波山、足尾山を経る「筑波連山縦走のみち(1)」がある。ちょうど加波山に登ったことがないので行ってみた。

茨城県道7号線の上曾峠から、きのこ山入口、グライダー離陸場と、舗装された稜線林道を北上したが、足尾神社入口を過ぎたあたりで、路面崩落による通交止めに遭った。バリケード前の林道路肩に駐車し、徒歩で足尾神社入口まで戻って歩道縦走を開始。出発がかなり遅くなってしまった。

入口から足尾神社本宮までは狭いながら舗装路が続く。社殿裏から急な長い階段を登り切ると、奥宮である石の祠が鎮座する山頂に出る。南側には峰続きのきのこ山の向こうに筑波山、西側足下には桜川市真壁の街並み、その先ずっと北関東の平野がどこまでも広がる。北側にはこれから向かう加波山が木立を通して見える。

軽く昼食をとって一本杉峠に向かって急な斜面をほぼまっすぐにおりてゆく。途中で稜線林道と出合うが、そこから一本杉峠までの歩道ルートは2本ある。ひとつは、舗装された駐車場下、四阿の前を通るもので、比較的ゆるやかな林道の旧道らしき道。他方は、きつい傾斜で直線的に下る、まったくの山道。往路は直線的に下り、復路には旧道らしき道を登った。

一本杉峠から発電所風車の建つ丸山へは急な登り返し。頂上付近を巻いて進むと風車管理道に接続し、土浦笠間間稜線作業道の営林署記念碑、自由の楫（加波山事件）の碑とモニュメントのある場所に到着。ここから再び急な階段を登って、歩道が緩やかになると旗立石や殉職碑が現れ、頂上は近い。加波山一丁目の石柱を過ぎると神社拜殿の裏に出る。その脇を通り抜け、少し先の本宮御本殿に到着。ネットで見ると、ここが山頂だと神社のサイトにあったが、周囲を樹木に囲まれて、眺望は乏しく感じられた。

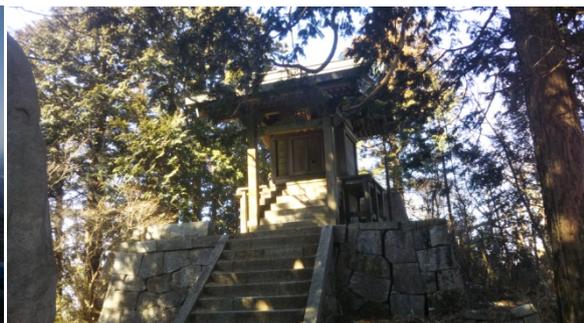
たばこ神社を経由して燕山までピストンするには遅い時間だったので、少しの休憩後、概ね往路をたどって車まで戻り、下山した。危険箇所もなく、短い距離だったが、アップダウンが急で、それなりに楽しめた山行だったと思う。

コースタイム

11:00 駐車場所（足尾神社近くの林道路肩）→11:10 足尾神社本宮→11:20 足尾山（足尾神社奥宮）→11:35 林道出合（足尾山分岐）→11:55 一本杉峠→12:20 つくば風力発電所→12:50 旗立石→12:55 加波山神社本宮御本殿 13:00→13:25 つくば風力発電所→13:40 一本杉峠→14:30 足尾山分岐→14:35 駐車場所



足尾山山頂から望む筑波山



加波山頂上の神社本宮御本殿

雄国沼・雄国山スノーシュートレッキング

2020年2月16日(日)

参加者 23名(生徒:11名、会員12名) 雄国沼・雄国山(1,271m)

石城登山教室2月の登山実技は、スノーシュートレッキング。3グループに分かれて、雄国沼・雄国山を目指します。スノーシューを初めて体験する私は、例年に無い暖冬と16日の会津の天気は雨と聞き、山には雪があるのか、と心配をしていましたが、マイクロバスが山を登って行くと、山の景色は雪景色に変わって行き、安心しました。到着時の天気は曇りでした。



☆スノーシュートレッキング開始(8時30分)

私のグループは2グループ、前後を会員の方たちに守られ、出発です。フワフワという雪質ではありませんでしたが、雪上をシュッシュという音を立てて進みます。柔らかな雪の所はズボッと足をとられたり、誰かが空けた足型の深い穴があったり、周囲の黒と白の世界を楽しみながら進んで行きました。途中、会員の方にスノーシューの歩き方を伺うと「少しがに股気味で、スリッパを履いて歩く時の様に軽く床をこする様な感じで歩くと良い」とコツを教えてくださいました。また、上り坂では、スノーシューのクライミングサポートを上げ、その上に踵を乗せると楽に歩ける事を教えてください、慣れない私でも雄国沼までの上り坂をスイスイと登りきることが出来ました。途中から雨が降り始めたこともあり、私たち2グループは雄国山へは行かず、そのまま雄国沼休憩舎行きを選択しました。雄国沼の周囲は雪が積もり一面凍結しており、とてもきれいな雪景色を觀賞する事が出来ました。



☆雄国沼休憩舎での昼食タイム(11時)

休憩舎の中に入っても吐く息は真っ白です。コンロでうどんを食べる方、カップラーメンを食べる方等、其々の昼食を楽しんでいました。私は、登山教室の中で、「おにぎりはそのまま持って行くとカチンコチンに凍って食べられない」とアドバイスを頂いていたので、当日、保温容器を二重にし、その中にホッカイロを入れ昼食を準備した所、ほかほかのおにぎりとお肉汁を食べる事ができました。先を考えた備えの大切さを学ばせて頂きました。

☆雄国沼休憩舎出発(11時40分)

下山の時に、二つのアクシデントがありました。一つ目は、道に迷いそうになったことです。出発して間もなく、左方向に行く所を右方向へ進み、皆で何か景色がおかしいと思っていると雄国沼休憩舎の方へ戻っていました。途中で雄国沼案内図のあった看板まで戻って行くと、1グループと一緒にいたので「ああ良かった」と思っていたら、1グループの方達は山に登る方向に行ってしまったため戻って来たという事でした。1グループと2グループで方向を確認し、無事に雄子沢方面へ進む事が出来ました。目印が無い雪山の怖さとコンパスの使用方法を学ぶ事の大切さを実感した体験でした。



もう一つは、私が履いていたスノーシューのビンディングを取り付ける土台が壊れてしまった事です。未体験者の私は、これはもう自力で歩いて行くしかないのかと覚悟しましたが、会員の方達の行動力は素晴らしい物でした。結束バンドやフック、ゴムバンド等を駆使してスノーシューに取り付けて下さり、無事に下山する事が出来ました。どんな状況下でも諦めず、個人に寄り添って下さる会員の方達には感謝しかありません。本当にありがとうございました。

☆雄子沢登山口到着（14時）

☆裏磐梯休暇村温泉（14時30分～15時30分）

広い温かな温泉に入り、心身共に癒されました。やっぱり温泉は最高です！！

☆いわき市合同庁舎（17時）

朝6時いわき市合同庁舎を出発してから、楽しい1日があっという間に過ぎました。今回の冬山スノーシューの登山実技を通して、登山教室が目的としている「正しい登山知識・技術の普及」の大切さを改めて学ぶ事が出来ました。ありがとうございました。

（文責・佐藤秀美）